

第二十二回『日韓談話室』——崔書勉先生を囲む会——御案内

早々と葉桜の候となりました。今年は咲くのが早くあっけなく散ってしまいました。満開の桜の美しさに心が拭われたようです。

四月、新年度を迎え、皆様にはご健勝にてお越しの事とお喜び申し上げます。担当談話室でも、深い関心を抱いております。教科書問題で歴史認識につき、またまた近隣の韓国、中国、台湾などからクレームが出され、歴史をわい曲しているとの批判があがって居りましたが、全ての修正に応じ合格したようです。年中行事のようなこの問題を、新世紀に迄持ち越し、日本の見識が問われるところ。そこでこの一ヶ月余り、本問題に集注し、取材に疲れている東亜日報東京特派員、沈撥先生より、韓国側の立場から、ざっくりばらんなお話を承り度存じます。

崔先生、越智通雄先生より常の如く、本問題をそれぞれにフォローして戴きます。

尚、本年度も諸行事を予定しておりますが、ご希望が御座居ましたら事務局迄、お寄せ下さいませ。ご多用中とは存じますが、お繰り合わせご出席賜りますよう、右御案内申し上げます。

敬具

二〇〇一年四月一日

『日韓談話室』

代表世話人

堀 渉

橋 本 明

世話人 嘉 陽 嘉 枝

寺 田 佳 子

記

日 時 二〇〇一年四月二七日(金)

受付 一七時三〇分 開会 一八時 〇二〇時 〈終了退室〉

場 所 日本倶楽部 丸の内・国際ビル八階 電話 〇三―三三二―一―二五一一

会 費 五千円(簡単なお弁当をご用意致しますので当日のお取消は御容赦下さい)

四月二三日(月)迄に、同封葉書にて必ずご出欠をお知らせ下さいませ。ようお願い申し上げます。

『日韓談話室』連絡先 オズインターナショナル内 寺田・白村 電話 〇三―三四〇四―一一八八

ファックス 三四〇四―六三〇一

「報告」一九六六年、韓国初代防衛駐在武官であった時以来三十年余り、北を見つめ続けて来た日本でたった一人の研究者塚本勝一先生より著書「北朝鮮・軍と政治」を解説して頂き乍ら普段は知る事の出来ない、興味深々の北朝鮮について伺いました。金日成、金正日父子の世間で云われている、権力の持ち方は違っている事、父はソ連に認めさせ、後押しを受けられる力を持つてリーダーになった事、又、息子は権力闘争を勝ち抜いて、権力の座についていると云う事、朝鮮戦争は誰が始めたのか？、スターリンの意見を正直に聞いた金日成の決起であった筈である、又三十八度線の分断が戦争の原因であり、戦争の結果「戦争によって何事も解決出来なかった」と云う事が、金日成にとって最大の教訓であり、最大の進歩であったと云えます。この教訓により、金日成の時代「戦争はない」と云い切れたし、この教訓をどの程度汲み取っているかは解からず、にしても、金正日も戦争はしないと云っている、と云う。塚本氏のご意見等伺いました。北朝鮮の内情に付いては伺って、いれれば知りたいと云う興味は湧き、いで、終われなかつたのですが、残念乍ら、終了時間を迎えました。

越智先生は一月三十一日、二月三日、ワシントンを訪問、ナシヨルブレイヤースブレックファーストに御参席になりました。アイゼンハワー大統領の時代、戦争中、戦勝を祈っていたクリスチャンが集まって、年に一度お祈りをする、その時各国から宗教を信ずる人を集め、人間の存在を超えるスーパーなものがある事に対して、謙虚な気持で人生を歩んで行く人は集まれと云う事で行われているものです。ブッシュ大統領については、毎朝聖書を読む敬謙なクリスチャン、時間には厳格、服装もネクタイ着用、女性もズボン、スニーカーは禁止、広く博愛精神の持ち主であるが、二〇〇〇年間ヨーロッパの伝統を守り続けている家系である、お酒は飲まない土日はお祈りの日、アポイントには難しい、閣僚にはユダヤ人は一人もいない、ウオールストリートの人を入れていない、閣僚の半分は産業界の人である、平均年齢はクリントン時代より八才高い、経済はグリーンズパン氏に凡てを毎日相談しているとの事、共和党はアジアに向っていないので、二度しか外国旅行をしていない、ブッシュ大統領を日本に呼んで来るのは難しい、そして、ゴールドマンサックスに代ってクレディスイスファーストボストンが一番強くなるだろう、これからは又アメリカが強くなるだろうから、金正日は中国へ行つたのではないか、モスクワへも行くだろうと、北と中国とロシアがカムバックしてくる恐れがあるだろうかとのご意見を伺いました。

韓半島の位置からも、近代史において、韓国人が自分で自分の外交を決定した事は一度もない、金大中大統領の北朝鮮との融合策は批判もあるが、歴史上、韓国人が韓国問題を解決しようと外交を展開したのは初めてであり、歴史的に意義がある、と云う、崔先生からのお話で締め括りました。